



送別のことば

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福原, 行三 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/2241

送別のことば

大阪府立大学経済学部では、和田貞夫先生と谷山新良先生が、昭和61年3月31日をもって、定年退職を迎えられることとなりました。予想されたこととはいえ、いまその時期になりますと、惜別の情まことに切ないものを覚えます。

和田先生は大正11年9月8日大阪市においてお生まれになり、昭和19年大阪商科大学を卒業されました。兵役、実業界などでの活躍ののち、昭和27年9月に大阪府立大学（当時の名称は浪速大学であった）教育学部にご着任になりました。昭和29年の経済学部創設にともない、本学部へお移りになり、昭和38年8月教授に就任され、今日に至っておられます。その間、本学評議員をはじめ大学院委員・補導委員長・同和問題委員など諸種の委員の要職を務められ、ことに昭和55年4月より2年間、経済学部長の重責を果され、学部ならびに大学の管理運営に多大の貢献をつくしてこられました。顧みますと、34年という長い年月、働きざかりの殆んどすべてを大阪府立大学のために尽してこられたわけであります。

先生は経済学部では、数理経済学講座の教授として、研究・教育に当たってこられました。経済成長の理論的研究を中心に、資本理論、一般均衡理論、経済変動理論の分野で、多大の優れた業績を残されております。学生や若い研究者の指導にはとくに熱心に力を尽くされ、学生の相談にも親身になって当られ、多くの有為な社会人を世に送り出してこられました。

明朗快活、いつも若々しい青年のご気性でいらっしゃり、専門の学問上の問題のみならずご関心のあることについて、いついかなるところでも、誰とでも気軽に論議し、ご自身の研究の強化・発展に資するよう努めておられる誠実な研究者でいらっしゃいます。

谷山先生は大正11年7月23日鹿児島県においてお生まれになり、昭和22年広島高等師範学校理科第一部（数学科）を卒業後、一時、中学・高校の教職につかれましたが、再び京都大学経済学部および同大学院において経済学をご勉強

送別のことは

になり、昭和32年9月大阪府立大学経済学部勤務され、昭和50年4月教授に就任されて今日に至っておられます。その間、経済学部では大学院委員、補導委員長、附属図書館委員、同和問題委員などの要職を務められ、ご退職前の1年間は本学評議員として大学の管理運営にも多くの貢献をされました。先生も30年近い長年月を本学のために尽してこられたわけであります。

先生は、産業経済論講座の教授として、産業構造論および保険論を中心に研究・教育にあたってこられました。従来、商学の一部門として取扱われてきた保険論を、現代経済学の立場から経済学の一分科としてこれを体系化するという、新しい研究を結実させられ、高い評価を受けてられます。そして、産業構造論の面では、大阪経済の産業連関分析をも手掛けられ、理論と現実の両面の研究に優れた業績を残してこられました。こういう現実問題にも通じた研究者であるため、大阪府都市計画審議会委員をはじめいくつかの行政委員の仕事も兼務され、それぞれの分野で多大の貢献をしてこられました。

先生のお人柄は円満、謹言、実直で、孜孜として研究に励まれ、学生に対しては実に懇切丁寧な態度で臨まれます。ご自身の研究にも学生の教育にも、人一倍熱心に取り組まれる先生のお姿は、まことに印象的であります。

以上のようなかすかすの立派な業績を残された先生を同時にお二人をお送りしなければならないということは、まことにお名残り惜しく別離の愁いをしみじみと感じております。両先生にとっては、長い間お育ていただいたこの思い出多い経済学部を去られることは、万感胸にせまるものがありと拝察いたします。両先生のご功績を讃え、われわれの感謝の気持ちの一端を表わすものとして、本冊を編集し両先生に捧げるものであります。さいわい両先生とも極めてお元気でいらっしゃいますが、今後一層ご健康に留意なさって、いつまでもご活躍なさいますよりお祈りいたしますとともに、大阪府立大学経済学部を見守り、その一層の発展のためお力添えを賜るようお願い申し上げます。

昭和61年3月

大阪府立大学経済学部長

福原行三